

企画展ではご紹介できなかった臨春閣の数寄屋装飾

工事完成後のお披露目をお楽しみに！

※2021年秋を予定しています。



①第三屋 天楽の間

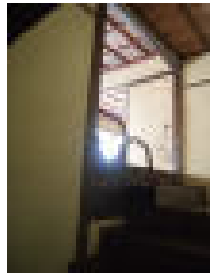
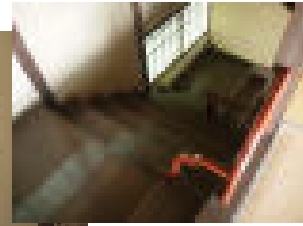


欄干を模した欄間に雅楽で使われる楽器（笙・箏・篳篥・高麗笛・竜笛）が収められています。楽器は実は簡単に取外しが可能。昔の人は、ここから楽器を取り外して演奏していたりしたのかも？

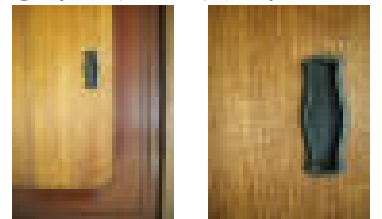
②第三屋 次の間



2階へ上がる階段の入り口の形が、寺院建築で見られる「火灯（花頭）」の形をしています。階段は江戸時代の建築にしてはかなりゆったり、朱漆の手摺にも華やかなデザインが見られます。



②第三屋 次の間



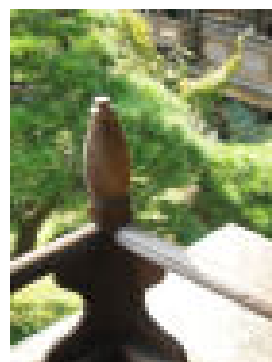
第三屋次の間の物入の戸、朱漆の枠に柱目の鑑板とシンプルながら、取っ手金物がさりげなく豪華！

④第二屋 廊下

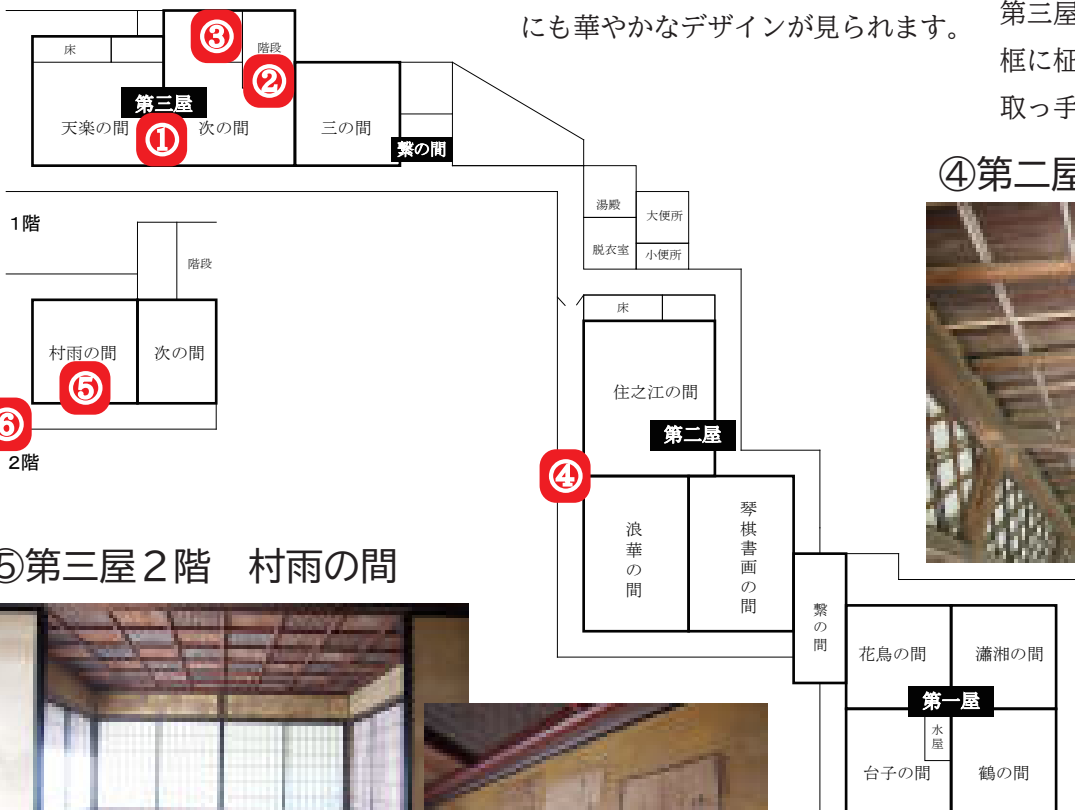


池に面した廊下に設けられた「海老虹梁」。廊下の途中、住之江の間と浪華の間の境に相当する場所にあります。上段と下段との「結界」の意味もあるといえるでしょう。

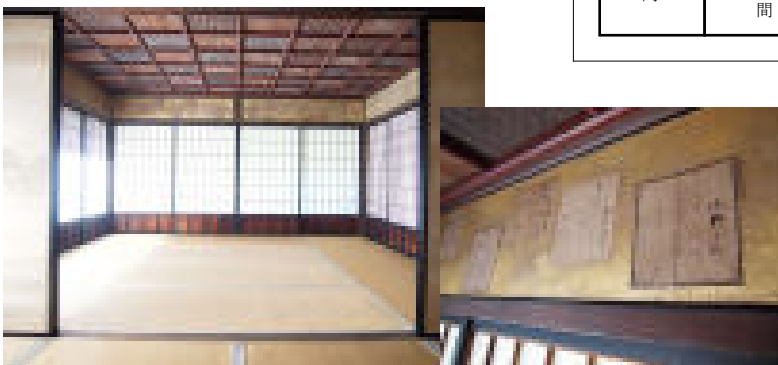
⑥第三屋2階 欄干



第三屋2階のメインの部屋の名前は「村雨の間」。その周りを巡る欄干の擬宝珠も雨に因んだモチーフが用いられています。閉じた傘を意匠化した、おしゃれなデザインです。



⑤第三屋2階 村雨の間



天井は朱漆の格天井、格間には網代と杉の柱目板が市松状に収められています。小壁には百人一首を記した色紙が貼り交ぜられており、記した人物の名前や位から作られた時代が推定されています。

